

ちひろ山荘ものがたり

画家 いわさきちひろ と 建築家 奥村まこと



いわさきちひろ わらびを持つ少女
『あかまんまとうげ』(童心社)より 1972年



撮影:光齋昇馬



黒姫山荘でのいわさきちひろ 1966年
所蔵:ちひろ美術館

会期 2023年
4月15日(土)～7月17日(月・祝)

入館料 一般 800円・小中学生 500円

主催:黒姫童話館 協力:公益財団法人ギャラリーエークウッド・ちひろ美術館

黒姫童話館&童話の森ギャラリー

ちひろ山荘ものがたり



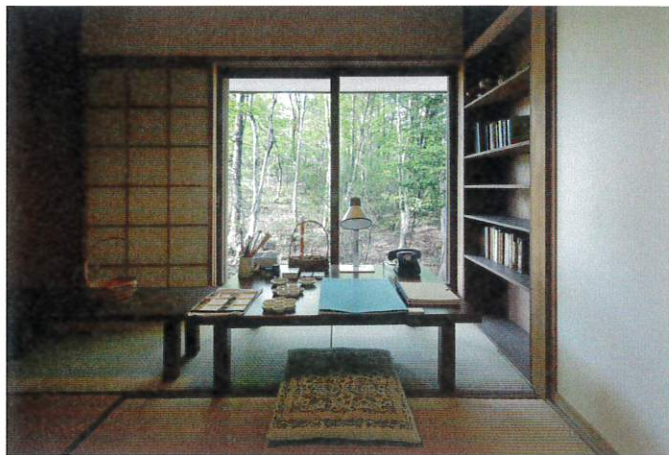
いわさきちひろ ストープに薪をくべる少女 1973年

初代信濃町町長・松木重一郎の「児童文化村」構想があり、黒姫に山荘を建てることになったいわさきちひろは、女性建築家奥村まことと出会います。まことはちひろの希望を叶えて、いわさきちひろ黒姫山荘を設計しました。山荘は、建築家吉村順三に学んだ奥村まことの建築理念が生きています。ふたりは共に家庭を持ち子育てや介護などをしながら、困難を超えて仕事を続け、社会に発信し続けました。

黒姫での暮らしと仕事場である山荘に込められた、ちひろとまこと、ふたりの女性の生き方、さらに建築物としての山荘を紹介いたします。



撮影:光齋昇馬



撮影:光齋昇馬

「八月なかば、信州の山の風は秋風です。病後の老母を看病しがてら、二人っきりの山荘ぐらし。こんなことは何十年ぶりのことでしょうか。

おさない日の自分にかえるような気がして、また次の絵本のことを考えはじめました。」

いわさきちひろ「絵本づくりの仕事場より」至光社（1970年9月）

《いわさきちひろ》 1918-1974 画家

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京に育ちます。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木位里・俊に師事。1950年松本善明と結婚。翌年長男猛誕生。40冊あまりの絵本のほか、教科書やカレンダー、広告など主に印刷物での仕事を中心に活躍。子どもを生涯のテーマとして描き、9550点を超える作品を残しました。代表作に「おふろでちゃぶちゃぶ」(童心社)、「あめのひのおるすばん」「ことりのくひ」(至光社)「戦火のなかの子どもたち」(岩崎書店)などがあります。1977年に業績を記念し、東京の自宅兼アトリエ跡にいわさきちひろ絵本美術館(現・ちひろ美術館・東京)設立。1997年安曇野ちひろ美術館開館。

《奥村まこと》 1930-2016 建築家

東京府北豊島郡(現・東京都練馬区)に生まれます。自由学園で教育を受け、創設者羽仁もと子の「自分と人とを比較採点しない」精神に影響を受けました。1949年、女性として初めて東京藝術大学建築科に入学。卒業後、恩師である吉村順三の設計事務所に入所し、吉村の設計理念に学びます。1952年女性建築家の集いPODOKO(ポドコ)が発足し、参加します。1955年には建築科の先輩である奥村昭雄と結婚。翌々年、長女まき誕生。1972年に吉村事務所を退所後、奥村設計所設立。以後晩年まで設計活動を受け、主に住宅建築を手掛けました。1981年からは、夫とともに空気集熱式ソーラーシステム(OMソーラー)の考案に取り組みなど、空気や熱のデザインを得意とする夫と協力しながら、住む人の主体性を大切に設計を行いました。

会期中のイベント

6月11日(日) 13:30~15:00
松本猛講演会〔事前申込制〕

タイトル
「いわさきちひろと黒姫児童文化村」



黒姫童話館&童話の森ギャラリー

長野県上水内郡信濃町野尻3807-30
電話:026-255-2250

当館は、ペットの入館はできません。外へ係留してください。

おトクな 周遊きっぷ

- 黒姫童話館&童話の森ギャラリー
 - 一茶記念館
 - 野尻湖ナウマンゾウ博物館
- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 3館周遊きっぷ | 一般 1,300円 | 小中学生 750円 |
| 2館周遊きっぷ | 一般 850円 | 小中学生 500円 |

